

## 国立大学法人香川大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和 8 年 3 月 4 日  
国立大学法人香川大学  
学長選考・監察会議

国立大学法人香川大学学長選考・監察会議は、国立大学法人香川大学学長選考・監察会議規則第 4 条第 4 号に規定する学長の業務執行状況の確認について、下記のとおり確認を行った。

### 記

#### 1. 対象期間

令和 6 年 10 月 1 日から令和 7 年 9 月 30 日

#### 2. 確認経過

- (1) 学長選考・監察会議（令和 7 年 12 月 5 日開催）  
確認資料に基づく書面審査を行い、各委員からの意見を聴取した。
- (2) 学長選考・監察会議（令和 8 年 1 月 28 日開催）  
各委員からの意見に基づく学長からのヒアリングを行い、加えて監事からの意見を聴取した。
- (3) 学長選考・監察会議（令和 8 年 3 月 4 日開催）  
以下のとおり確認結果を策定した。

#### 3. 確認結果

学長選考・監察会議では、「上田 夏生」学長の業務執行状況は、大学運営に係る諸課題に対して真摯に取り組み、着実に成果を上げていることを踏まえ、適正であることを確認した。

教育に関しては、博士人材の養成に向けた取組が着実に進展している。文理融合型の創発科学研究科においては、博士前期課程に加え博士後期課程にも社会人学生を積極的に受け入れ、異分野交流を基盤とした高度専門人材の育成が進められている。さらに、社会人の学び直しを総合的に支援する「リキャリスキル教学センター」を新設し、多角的な支援体制を整備したことは、社会人教育と学位課程との円滑な接続を図る先導的取組として評価できる。

研究に関しては、科学技術振興機構「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）【地域共創分野・本格型】」への採択が特筆される。育成型期間における成果と発展性が高く評価された結果として、令和 7 年 3 月に本格型への移行が実現し、今後 10 年間にわたる継続的かつ計画的な事業展開の基盤が確立された。本事業を核として、地域課題解決と新たな社会的価値の創出に向けた取組の一層の推進が期待される。

また、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）の推進については、理念にとどまらず、具体的施策の実施及び成果の可視化を通じて実効性を高めることが重要であ

り、今後も継続的かつ積極的な取組を期待する。

さらに、「学環」構想については、香川大学の教育研究組織の将来像に関わる重要施策であることから、理念の明確化と十分な制度設計のもと、全学的合意形成を図りつつ着実に推進されたい。

今後も、中長期的視点に立脚した明確なビジョンのもと、香川大学の特色と強みを生かした教育・研究・地域連携を一体的に推進し、持続可能な大学経営に向けた一層のリーダーシップを期待する。